

(仮訳)

国際保健規則 (IHR) に基づく黄熱に関する緊急委員会

WHO ステートメント 2016 年 5 月 19 日

黄熱に関する緊急委員会が、2016 年 5 月 19 日 13:00~17:15 (欧州標準時間) 電話会議にて、WHO 事務局長により招集された<sup>1</sup>。

次の流行国は、会議の情報セッションに参加した：アンゴラ、コンゴ民主共和国。

WHO 事務局は、これまでの黄熱イニシアティブの歴史とインパクト、アンゴラの首都ルアンダにおける都市型黄熱流行並びに国内及びコンゴ民主共和国、中国、ケニアへの国際的な拡大に関する概要を委員会に報告した。また、委員会は、増大しているアフリカにおける都市型黄熱のリスク、黄熱ワクチンの世界規模での備蓄状況について報告を受けた。

以上の報告を踏まえた議論及び審議の後、委員会は、アンゴラとコンゴ民主共和国における都市型の黄熱流行については、公衆衛生上深刻な事案であり、国の対策及び国際的な支援を強化することが必要であると判断した。また、委員会は、提出された報告に基づき、本件は現時点において、国際的に脅威となる公衆の保健上の緊急事態 (PHEIC) には該当しないと判断した。

現時点で、本事案は PHEIC を構成しないと考えられるものの、委員会の委員らは、都市型の黄熱流行は、国内及び国際的に深刻なリスクであることを強く強調しており、WHO 及び加盟国が至急実施すべき事項について、以下の技術的助言を行った：

- ・アンゴラとコンゴ民主共和国におけるサーベイランス、集団予防接種、リスクコミュニケーション、住民啓発・動員、媒介動物のコントロール、患者の管理等の対策を加速すること；
- ・アンゴラとコンゴ民主共和国に出入国するすべての渡航者、特に移民労働者、への黄熱ワクチン接種を確実に行うこと；
- ・黄熱リスク国や現在の流行国と国境を接している国々におけるサーベイランスや渡航者の黄熱予防接種証明書の確認やリスクコミュニケーションを含む

対応準備の対策を強化すること。

委員会はまた、新たな黄熱患者の輸入例に対し迅速に対応すること、現状の対応活動を徹底的に評価すること、また黄熱の検査と確定診断の対応能力を急ぎ拡大させることの必要性を強調した。黄熱ワクチンの国際的な供給量に限りがあることを認識し、委員会は、黄熱ワクチン接種は1回で無期限に有効であるとのポリシー<sup>2</sup>を直ちに適応すること及びWHOの予防接種専門家会議（SAGE）による本戦略の評価を急ぐことについて助言した。

今後に向けて、委員会は、このような事案のリスクが増大しているというWHOのアセスメントと足並みを揃え、都市型黄熱流行の予防のための世界戦略を評価及び改訂が予定されていることに対して賛同した。

以上の見解と現時点で入手可能な情報に基づき、事務局長は、現在の黄熱の流行状況が深刻かつ重大な懸案事項であり集中的な対策が求められると考えられるものの、現時点ではPHEICを構成しないとの委員会のアセスメント結果を受け入れた。

事務局長は、加盟国に対し、アンゴラ及びコンゴ民主共和国に渡航する者又は該当国から来訪する者に対しIHR（2005）<sup>3</sup>に基づく黄熱予防接種の要求事項を執行するよう促す。

事務局長は、本委員会の流行国及びリスク国に対する優先すべき活動及びWHOの更なる黄熱リスク管理活動に関する総括的な助言に対して感謝した。事務局長は、本委員会が必要に応じ再招集されることで一致したことについて謝意を示した。

脚注：

1. 緊急委員会委員及び諮問委員の氏名及び経歴要約：

<http://www.who.int/ihr/procedures/yellow-fever-ec-members/en/>

2. 世界保健総会決議 WHA67.13

3. 国際保健規則(2005) 附録第7に則る